

## 平成 26 年度 JaLC 運営委員会（第 3 回）議事要旨

### 開催要旨

- 日 時 : 平成 26 年 10 月 2 日 (木) 15:00~17:00
- 場 所 : 独立行政法人科学技術振興機構 東京本部 7 階会議室
- 出席者 : (敬称略)  
国立情報学研究所 武田英明 (委員長)  
独立行政法人科学技術振興機構 水野充 (副委員長)  
国立国会図書館 原田久義 (委員)  
独立行政法人物質・材料研究機構 谷藤幹子 (委員)  
科学技術振興機構 中島律子、加藤齊史、余頃祐介 (事務局)
- 議 事 概 要 : 1. JaLC 現況<報告>  
2. 識別子ワークショップ  
~JaLC、CrossRef、DOI、ORCID そして…~<報告>  
3. 研究データへの DOI 登録実験プロジェクトの公募選考<審議>  
4. JaLC 各種説明ドキュメントの整備およびポータルサイトデザイン<審議>  
5. DOI 活用の将来像<審議>  
6. その他

### 議事概要

#### 1. 「JaLC 現況」について報告を行った。

- ・ 新システムのリリースが 12 月 22 日 (月) に予定されているが、万が一トラブルがあった場合、年末年始にかかってしまうことから、リリース後にトラブルがないよう、リリース予定日の 1 ヶ月前および 1 週間前に慎重にリリース判定を行うこととする。
- ・ 新システムのリリース予定日を早期に利用機関へ周知し、利用機関側の準備期間を十分に確保することとする。
- ・ 年末年始期間の新システム移行対応が困難な機関については配慮をする。
- ・ 10 月末に予定している新システム移行説明会の際に、年末年始期間の対応可否について、利用機関にヒアリングを行うこととする。

#### 2. 「識別子ワークショップ」について報告を行った。

- ・ 運営委員会 (第 2 回)<sup>1)</sup>での審議のとおり、11 月 6 日 (木) 図書館総合展フォーラムにて CrossRef と合同で「識別子ワークショップ」を開催するため準備を進めている。

#### 3. 「研究データへの DOI 登録実験プロジェクトの公募選考」について審議を行った。

- ・ 選考の結果、次の 8 機関が採択された。(敬称略、順不同)

<sup>1)</sup> 平成26年7月28日開催

独立行政法人 科学技術振興機構

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

独立行政法人 産業技術総合研究所

独立行政法人 情報通信研究機構

千葉大学附属図書館

独立行政法人 物質・材料研究機構

独立行政法人 理化学研究所 脳科学総合研究センター 神経情報基盤センター

- ・ 早急に本プロジェクトのキックオフミーティングを開催する。
- ・ 採択機関の傘下の機関にもオブザーバとしての参加を認めることとする。
- ・ キックオフミーティングでは、各機関が「プロジェクト参加申込書」に記載した「想定される検討課題」について発表してもらうこととする。それにより、本プロジェクトにおける検討課題が容易に抽出できるようになる。
- ・ キックオフミーティングの事前に、ヒアリングシートを準備し採択機関に送付し記入してもらう。

#### 4. 「JaLC 各種説明ドキュメントの整備およびポータルサイトデザイン」について審議を行った。

「各種説明ドキュメントについて」

- ・ 各種ドキュメントに対して委員会でのコメントを事務局で反映し、メールベースで委員が確認する。

「ポータルサイトデザインについて」

- ・ CrossRef が、その web サイトのトップページ中央に「API Documentation」へのリンクを表示しているのは、今後、CrossRef は API 利用を推進していくという戦略の現れなのである。

#### 5. 「DOI 活用の将来像」について審議を行った。

- ・ DOI リゾルブについては、IDF から prefix 毎のリゾルブ数が提供されている。しかし、現段階ではそれを会員に提供していない。DOI リゾルブ数は会員に提供できるとよいだろう。
- ・ 被引用問い合わせの API により被引用数を知ることができるのは、JaLC 会員のメリットである。会員と非会員との違いはその辺りにある。
- ・ CrossCheck まで踏み込むかどうかは検討が必要だが、やるとすれば JaLC は CrossRef に対する取り纏めとして JaLC 業務を拡大する話となる。

— 以上 —